

# 事例研究報告

特別支援学校中学部の生徒が  
教員からの働きかけを受け入れながら、  
人との関わり遊びを継続して行おうとする指導

# 生徒の実態

- 中学部、肢体不自由、知的障がい
- 座位や膝立ち位を取ることができ、臥位から膝立ち位へと姿勢変換することができる。ずり這いで進む。
- ハイタッチやグータッチを自ら手を伸ばしたり、クレーン動作で人に関わったりする。
- 興味のあるものには手を伸ばしたり、追視したりする。
- 短時間ではあるが、意欲的に活動に取り組むことができる。ただ、掴む、抜き取る、放す、投げる等の関わり方は限られている。
- 言葉による指示理解は難しい。発語はないが、発声はある。
- 自傷行為がある。
- 服を伸ばしたり、クッションを抱っこしたりして顔を覆うことを好み、落ち着くことができる。

## 保護者の願い

できるだけ自立できるようにしてほしい。

## 教員の願い

好きな物や好きなことを増やして、それを使った活動を楽しむことができるようになってほしい。その活動を日々の余暇活動に生かしてほしい。

## 指導目標の案

物を手にした後に、指定された場所に入れることができる。

# アドバイザーからの助言

## 1 実態から考える指導

### ～二項関係をしっかりと育てる～

- 二項関係は成立しているが、まだ弱い。横への発達を促していく。
- 自己刺激を楽しんでいる。外部の刺激っておもしろいなあに変えていく必要がある。



## 2 人への気づきを促す指導

- まず、体を通した指導が必要である。体を通した遊びでは教員がおもちゃ(教材)になる、固有覚に働きかける関わりがよい。

次に、揺れ遊びなどの感覚遊びを取り入れた関わりを行う。

物を用いた指導は少し取り入れてみる程度でよい。

- 体を通した遊びに興味を持たせる。興味を持ったことを強調し、生徒のテンポや動きに合わせてながら「これっておもしろいなあ」に変えていく。



# 指導目標の見直し

教員からの働きかけを受け入れながら、  
人との関わり遊びを継続して行おうとする。

# 指導1:叩く・さする・圧刺激

## <手続き>

- ①教員と身体を触れ合った状態で、音階や歌等を歌いかけながら、背中や足などを叩いたり、さすったり、じわっと押したり(圧刺激)する。
- ②音階や歌が終われば、少しの間何もしないで生徒の反応を待つ。
- ③再び①・②を繰り返す。

## <評価基準>

- ◎:受け入れ、終了後教員の顔を見る等の行動あり。
- :終了まで受け入れる。離れない等。
- △:途中まで受け入れる。
- ×:教員の手を払いのけ、その場から離れる。

## <結果>

- 達成率：◎100%
- 音階を歌いながらの腕への圧刺激は、教員の顔をじっと見つめる等、教員の関わりをしっかりと受け止めている様子が見られた。
- タッピングは最初の1回目は嫌がるが、続けて行っていると受け入れられるようになる姿が見られた。
- 腕などをさすると、落ち着いてリラックスする様子が見られた。

## 指導2:揺れ

### <手続き>

- ①教員の膝に乗せて顔を見ながら抱っこし、ゆっくりとした穏やかな歌を歌いかけながら、左右や上下にゆっくりと揺る。
- ②歌が終われば、少しの間何もしないで生徒の反応を待つ。
- ③再び①・②を繰り返す。

### <評価基準>

- ◎:受け入れ、終了後顔を見る等の行動あり。
- :終了まで、その場を離れず受け入れる。
- △:途中まで受け入れる。
- ×:教員の手を払いのけ、その場を離れる。

## <結果>

- 達成率：◎64%、○36%
- 体を高く抱き上げて揺ったり、速いリズムで揺ったりすると嫌がったが、ゆっくりとした曲（エーデル・ワイス）では落ち着いて受け入れることができた。
- 終わってマットに降りても教員の膝に戻ってくるがあった。

# 指導3: 教員の指示を受け入れて 手や足を動かす

## < 手続き >

- ① 言葉かけ(「ぎゅっ、ぎゅっ」「グググ」等)をしながら、上肢や下肢の上げ下げ、曲げ等の動きを方向付けながら誘導する。
- ② 抵抗する力が入れば、動きを止めて待つ。力が抜けて受け入れられる状態になってから再度、言葉かけをしながらゆっくりと動きを誘導する。

## < 評価基準 >

- ◎: 受け入れ、終了後教員の顔を見る等の行動あり。
- : 受け入れて、身体を動かす。
- △: 途中まで受け入れるが、抵抗したり、その場を離れたりする。
- ×: 教員の手を払いのける。その場を離れる。

## <結果>

- ・達成率：◎78%、○22%。
- ・腕は少し抵抗がある様子が見られたが、その時に動きを誘導せずに待つと、力を抜くことができた。
- ・足の持ち上げや、伸ばす、曲げるは抵抗なく動かすことができた。

## 指導4：発声を真似る

### <手続き>

- ①生徒の顔を見ながら生徒が出した声をすぐに真似る。
- ②早い段階で声を出さなくなれば、教員の方から声を聴かせて誘いかける。

### <評価基準>

- ◎：受け入れ、終了後顔を見る等の行動あり。
- ：終了まで、その場を離れず受け入れる。
- △：途中まで受け入れる。
- ×：教員の手を払いのけ、その場を離れる。

## <結果>

- 達成率：◎100%
- 発声を真似ると教員の顔を見続けることが多くあり、目が合うことも多かった。
- すぐに止めることなく、長い間、声を出し続けた。

## 指導の成果

- 発達段階をおさえた指導目標に替えて固有覚や前庭覚に働きかける指導を取り入れたことで、人と関わる時間が長くなり、顔を見つめることが多くなった。
- 教員の指示を受け入れて手や足を動かす指導では、動かす方向を体の動きで伝えると、指示を受け入れて体を動かすことができた。

# 実践を通しての気づき

- 発達段階をおさえた指導目標を考える必要があることに気づくことができた。
- アドバイザーによる指導を見て学ぶことで、生徒の実態に即した関わり方のポイント(言葉かけ、やりとりの進め方等)に気づくことができ、自身の得意な音楽を指導に活かしたことで、生徒と新たなやりとりが生まれ、やりとりできる手応えを実感した。
- 生徒が人に関心を示し、人からの関わりを受け止めている時には、相手の顔をよく見ているということや、同じ行動にもいくつもの伝えたい言葉(気持ち)があるということに気づくことができた。